

研究テーマ 「映像表現から広がる児童のコミュニケーション力（表現力）」

～服部さんとの映像表現ワークショップを通して～

鳥取市立逢坂小学校

1 はじめに

本校は全児童数51名、中山間地域に位置する小規模校である。3世代で暮らす児童が多く、地域が学校に協力的である。少人数だけに、大勢の中で自分の思いや考えをしっかりと表現していく力をつけることを課題としている。

学校経営の重点目標のひとつが、言語活動の充実である。主体的な学びや人間関係作りの基本を言語活動ととらえ、学校教育活動全体で取り組んでいる。

特に、鹿野町を拠点に本拠地にして様々な活動をしておられる「鳥の劇場」さんとは、6年にわたり「全校表現」の指導やアドバイスに来ていただいている。児童が体を通しての表現に興味をもち、「言葉には目的がある」こと「言葉には力がある」ことを、実感している。

さらなる表現力の向上と表現していこうとする態度の育成をめざして、このスーパーバイザー事業を受け、ビデオアーティストの服部かつゆき先生をお迎えして、映像ワークショップすることとした。

2 研究のねらい

本校の目指す児童像のひとつとして、「億せずチャレンジ、自分の考えを表現する子」がある。この目標を達成するための一つの試みとして、児童が普段あまり活用することがない映像メディアの使用を考えた。新しい表現方法の体験を通して、個々の豊かな発想力や児童独自の表現力が育まれるのではないかと考えた。また、この活動を通して児童が自分に自信を持ち、これまで以上に臆せず自分を表現していこうとする態度の育成をねらいとした。さらに、教師にとっても、この活動の中で、今まで見ていなかった児童のよさや、児童が本来持っている力を再発見し、それを児童に返していくことができるのではないかと考えた。

3 取り組みの概要

(1) スーパーバイザーの役割

スーパーバイザー SVP2（スプレッドビデオアートプロジェクト2）

ビデオアーティスト 服部かつゆき さん

本校が表現活動の大きな柱として位置付けている「全校表現活動」では、全校児童が関わりながら、教師もいっしょになって一つの劇を作り上げていく。大きな人数が関わるイベントでありプロジェクトと言える。それを全校で作りに上げていくところに意義がある。

このワークショップでは、映像表現の学習を「自己開発型の学習（トレーニング）」として、ビデオカメラを使用して、児童一人一人がそれぞれの思いを持って自分を表現する場、あるいは、少人数グループでコミュニケーションをとりながら作品を作り上げていく活動と考えた。映像づくりのプロである先生の持つておられるノウハウを生かしたワークショップを実施することを通して、演劇とは別の表現方法であるビデオによる表現の可能性を感じ、その技法や独特の表現方法を獲得

したり、相手とのコミュニケーションを図ったりしながら、自分の思いを伝えていくことの楽しさを感じ、一人一人が持っている思いを豊かに表現していく姿を期待した。



みんなでエグザイルを
やってみよう

(2) ワークショップの日程

ワークショップは、下記の通りの5日間にわたって実施した。時期を何回かに分けて実施することも考えたが、飛び飛びにするのではなく連続して実施することで、機器の操作にも慣れてより豊かな表現活動ができるのではないかと考えた。内容は、学年単独で行うものと、縦割り班のグループで行うものを組み合わせて実施することにした。

		8:45 ~ 9:30	9:35 ~ 10:20	10:45 ~ 11:30	11:35 ~ 12:20		13:55 ~ 14:40	14:45 ~ 15:30	
		1校時	2校時	3校時	4校時	給食	5校時	6校時	
10(月)	行事								
	ワークショップ						インストラクション		
	学年						4・5・6年生		
11(火)	行事	オープンスクール						もちつき	
	ワークショップ		意見発表会	こま撮り					
	学年			6年					
12(水)	行事	配食サービス(6年生)							
	ワークショップ	るみえーる		こま撮り					
	学年	4年		5年					
13(木)	行事						5・6年外国語		
	ワークショップ	ボールを繋ぐ							
	学年	4・5・6年							
14(金)	行事								
	ワークショップ			しり撮り	しり撮り		しり撮り		
	学年			5年	6年		4年		

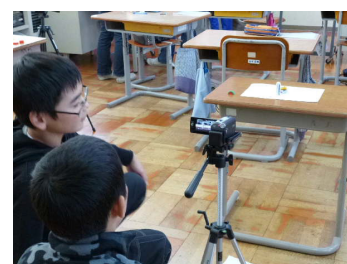
(3) ワークショップの実際

① 「こま撮り」 (5・6年生)

- 目的 アニメーションの基礎を体験する
- 課題 ビデオの写真機能を使って、こま撮りアニメを作る。自分の持ち物や友だちを、写真機能を使って撮る。動かないものに魂(アニマ)を吹き込んでどんなものでも動物(動くもの)にしてしまう。グループで何が動いたらおもしろいか考えて相談しながら作る。

○活動の様子

鉛筆や消しゴムなどの文房具を使って表現したり、自分自身、あるいは友だちといっしょになって体の動きで表現しようとしたりするなど、グループで意見を出し合いながら楽しく撮影する様子が見られた。普段の学習の中では、なかなか自分の思いを出し切れていない児童が、積極的に自分の意見を言ってリードする姿が見られた。



撮影の様子



動かし方を相談する児童

②「るみえーる」 (4年生)

- 目的 ビデオカメラの使い方と、ビデオ制作の基礎を体験する
- 課題 お気に入りの場所を選んで、1分間ビデオを作る。撮影中はビデオを動かすことができない。ビデオを写真のようにワンシーンワンカットで撮ることで、画角と尺を意識して、シーンごとの大切さを体験する。

○活動の様子

ある児童は来年度入学して来る妹のために、1年生の学習の様子を撮ろうと考えた。学習中であったため、1年生の教室に行き、担任の先生に交渉して許可をもらって撮影した。また、図書委員会に所属する児童は、クリスマスの本を紹介したいという思いから、図書室のクリスマスツリーを映しながら、自分のお気に入りの本の紹介をした。このように、ビデオカメラを置く場所に児童一人一人の思いが込められており、最後でお互いの作品をみ合う中で、ビデオに込められた思いを共有することができた。



撮影の交渉をする児童

③「ボールを繋ぐ」 (4・5・6年生 縦割り班)

- 目的 ビデオカメラで撮影しながら映像編集を体験する
- 課題 一人の人がボールを投げたら、次の人がボールを受ける。投げる人と受ける人は別の画面に出てくるように撮影する。グループになって6年生が指揮をして、シーンのつながりを工夫して、出来上がりを考えながら撮影する。

○活動の様子

4～6年生の縦割り班(ファミリー班)で実施した。6年生が中心となってリードしていく姿が見られたが、一人一人がそれぞれに自分がボールを受けたい場所などの思いを出し合い、上手に話し合いながら作品を作っている様子が見られた。中には、3階から下へ下へとボールが階を突き抜けて下へ落ちていく等の工夫が見られた。



校舎内で撮影風景



校舎を出て外での撮影

④「しり撮り」 (4・5・6年生)

- 目的 映像を言葉と身振りで学ぶ
- 課題 言葉のしりとりをビデオで作る。最初は普段やり慣れたしりとりを、順番に自分自身が身振りをして撮影して行く。次に、学校内にあるものを撮影して映像言語によるしり撮りをして、その違いを体験する。

○活動の様子

45分という短い時間でのワークショップをお願いした。最終日ということもあり、機器の操作にも慣れてきていたため、短い時間の中でも学校中を歩き回ってたくさんのしり撮りをする事ができた。



しり撮りをする児童

(4) 児童の感想

「ボールをつなぐ」(4年生)

班のみんなで協力して「こっちはこうした方がいい。」「こっちからボールを投げた方がいい。」などと、相談しながらやっていて良かったです。プールがこおっているところを転がしたり、外でとっていたりして、こんな工夫ができるんだなと思いました。ボールを取ったり投げたりするのがむずかしかったけれど楽しかったです。

「こま撮り」(5年生)

わたしは、アニメ作りがとても面白かったです。初めてのりや筆箱でアニメ作りをしたときに、ちょっとむずかしいこともあったけど、みんなで協力し合ってやってみたらとても楽しかったです。また来年もやりたいです。

「全体の感想」(5年生)

わたしは、家ではあまりビデオカメラやカメラを使ったことがなかったので、今回使ってみて、カメラはいろいろなさつえいの仕方があったり、こまどりアニメまでできることを知りました。ビデオカメラは、とり方を工夫すると場所がちがっても一つの映像ができることがわかりました。映像の学習をして、学校だけでなく家でもいろいろなところでカメラやビデオカメラを使ってさつえいしてみたいと思いました。

「ボールをつなぐ」(5年生)

今日は、「ボールをつなぐ」をしました。ぼくはいろいろたくさん考えました。3階からボールを投げて2階でキャッチ、それを投げてかべにはね返って、また投げて、勉強中のところにボールが入ってキャッチ。いろんなことを考えて、みんなの意見と合わせて、とってもいいものが作れました。それに、昨日やった音を入れたらもっと面白くなると、やっている途中に思いました。だから、家にあるビデオカメラやデジタルカメラを使っていろいろなことをしてみたいです。

4 研究のまとめ

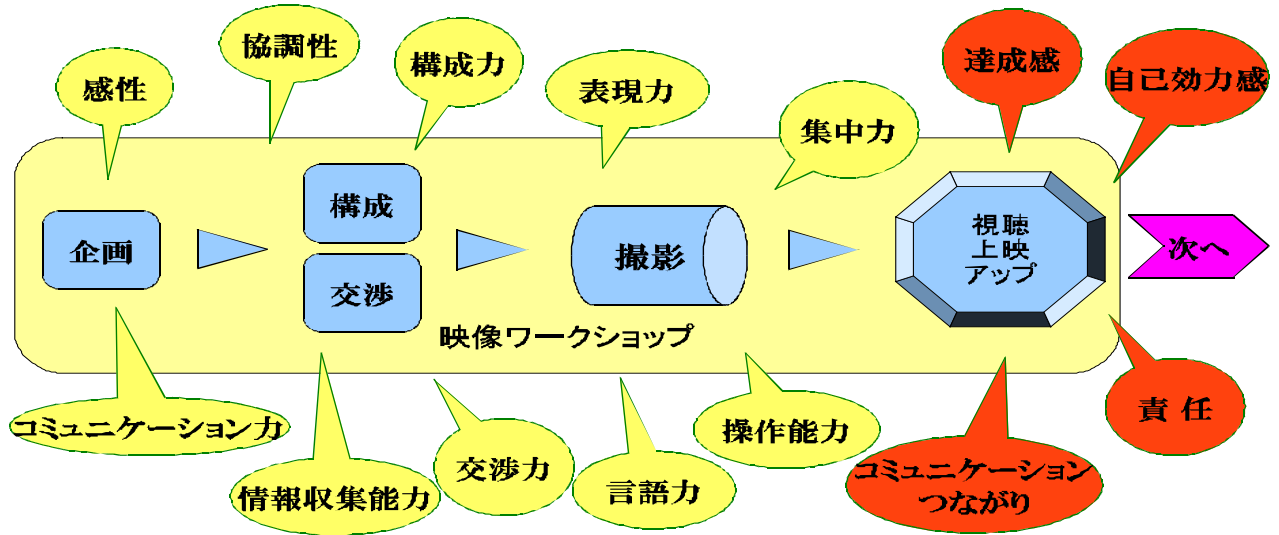
(1) 成果

- ①本物のアーティストから教えていただくことで、興味・関心を持って映像表現についての知識や技法を身につけることができた。
- ②児童一人一人の感性や思いを、映像という新たな表現方法を使って表現することができた。
- ③映像機器の操作や表現の仕方にも慣れ、次は自分でも試してみようとする意識や態度を養うことができた。
- ④グループで作品を作る際には、お互いのアイデアや思いを積極的に交換し合う姿が見られ、コミュニケーション力の向上に効果があると考えられる。

⑤ 5日間連続してワークショップを実施することで、機器の操作にも慣れて、表現活動の内容を深めることができた。

⑥ 作品の企画から撮影、そして視聴あるいは上映という流れの中で、様々な活動が必要となる。それらを通して児童はいろいろな力を身につけられるのではないかと考える。

映像ワークショップを通して得られた力



(2) 課題

① 本校は「全校表現活動」を総合的な学習の時間で実施している。この映像表現ワークショップの時間をどう取っていくかが課題である。

② 今後このようなワークショップを実施していく場合に、講師の先生をどのように確保するかが課題である。

③ 映像表現を生かした活動を、他の教科や領域の中でどのように実践していくか。

④ 今回は、インターネットへの動画のアップを服部先生にお願いしたが、自分たちでアップしていくこともできるのではないか。

⑤ このようなワークショップの学習効果やよさを保護者にもっと説明していくことが必要である。